

# 愛媛銀行の現況

平成22年9月期版／ディスクロージャー誌

## ごあいさつ



皆様には、平素より私ども愛媛銀行をご利用、お引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。

当行はこの度、平成22年度中間期（平成22年4月1日から平成22年9月30日まで）における業況、活動状況につきまして、ディスクロージャー誌「愛媛銀行の現況」を発売いたしました。本誌を通じて当行の現況をより一層ご理解いただければ幸いです。

当行は、昭和18年の創立以来、相互扶助の精神に基づき、お客様に幅広い金融サービスを提供しながら、力強く発展してまいりました。これもひとえに皆様方の温かいご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

今後とも皆様方のより一層のご愛顧とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年12月

頭取 **中山 紘治郎**

## もくじ

ごあいさつ .....	1
プロフィール／経営理念／第13次中期経営計画.....	2
営業の概況【平成22年度中間決算の概況(単体)】	
●金融経済環境／収益の状況／貸出金・預金等・預り資産の残高.....	3
●自己資本比率／金融再生法に基づく開示債権の残高と比率・格付／ 金融再生法開示債権の保全状況.....	4

## プロフィール(平成22年9月30日現在)

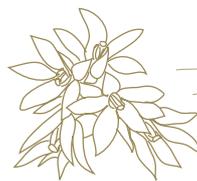
名称 株式会社 愛媛銀行  
 所在地 愛媛県松山市勝山町2丁目1番地  
 設立 昭和18年3月20日  
 資本金 190億78百万円  
 預金等 1兆7,096億円  
 貸出金 1兆3,116億円  
 店舗数 102店舗(本支店94、出張所8)  
 行員数 1,518名

### 愛媛銀行の行章(昭和27年10月制定)



地元で愛され、親しまれることを基本理念として、片仮名でエヒメを図案化したものです。エを円形にデザインし、お客様と銀行が固く結ばれ、お客様とともに、永遠の繁栄を表現したものです。

## 経営理念



ふるさとの発展に  
役立つ銀行

たくましく  
発展する銀行



働きがいのある銀行

## 第13次中期経営計画(平成21年10月～平成24年3月)

『地域No.1の金融サービスの提供』を経営指針として掲げ、行員一人ひとりが「できない」ではなく「どうすればできるか」を常に考えて行動し、《最初に相談される銀行》という愛媛銀行ブランドの確立を目指してまいります。

### 基本方針

#### ①お客様ロイヤルティの追求

愛媛銀行に相談してよかった、愛媛銀行と取引してよかった、また愛媛銀行に行こう、友達に愛媛銀行を勧めよう、とお客様に思っただけのように努めてまいります。

#### ②ジョブロイヤルティの追求

お客様へのサービスを向上させようとする行員を適正に評価し、私たち一人ひとりが満足して働ける職場環境を整えることにより、真に働きがいのある愛媛銀行を目指してまいります。

#### ③コーポレートガバナンスの強化

愛媛銀行は社会からの信用があって初めて存在していることを再認識するなかで、コンプライアンスの徹底を図り、社会の一員として規律ある経営、効率的な経営に徹してまいります。

### 概要

愛媛銀行ブランドの確立  
～最初に相談される銀行～

#### 第13次中期経営計画

差別化

地域No.1の  
金融サービスの提供

存在理由

お客様ロイヤルティの追求

ジョブロイヤルティの追求

コーポレートガバナンスの強化

## 金融経済環境

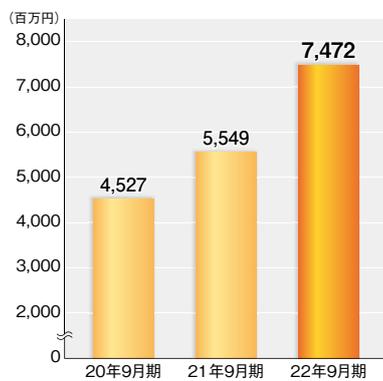
当中間期のわが国経済は、景気が緩やかな回復傾向にある中で、依然としてデフレ経済の状況が続き、欧米経済の減速や後半の急激な円高により、先行きに対する不安感は払拭できない状況となりました。

当行が営業基盤とする愛媛県内の経済情勢におきましても、業種間や地域間でばらつきはあるものの、依然として厳しい環境が続きました。

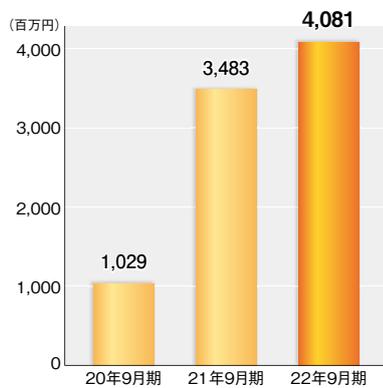
## 収益の状況

企業を取り巻く経営環境の低迷は続いています。効率的な資金運用に努めました結果、以下の業績となりました。

### ■ 業務純益



### ■ 経常利益



### ■ 中間純利益



用語の説明

#### ● 業務純益

銀行本来業務による利益を表したものです。

#### ● 経常利益

「業務純益」に株式売却損益や不良債権処理にかかわる費用等を加減算した利益のことです。

#### ● 中間純利益

「経常利益」から税金などを差し引いた最終利益のことです。

## 貸出金・預金等・預り資産の残高

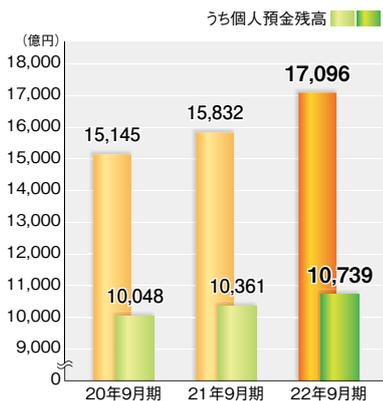
### ■ 貸出金の残高

貸出金は住宅ローンを中心に推進した結果、前年同期比+133億円(+1.0%)となりました。



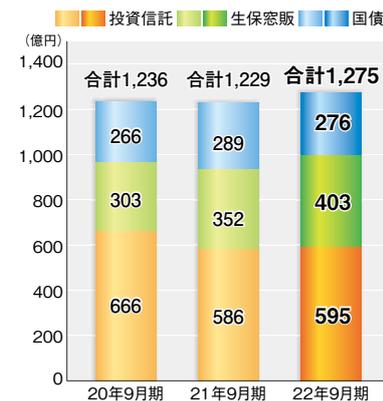
### ■ 預金等の残高

預金等は積極的な営業展開により法人預金が順調に推移したほか、個人預金の増強を図った結果、前年同期比+1,264億円(+8.0%)となりました。



### ■ 預り資産の残高

お客様の資金運用ニーズにお応えするため、商品内容の充実に努めました結果、前年同期比+46億円(+3.7%)となりました。



※生保密販は販売累計額ベースです。

## 自己資本比率

### ■自己資本比率

平成22年9月末の自己資本比率は9.47% (前年同期比+0.18ポイント)となり、国内のみに支店を持つ銀行の水準である国内基準(4%以上)を大きく上回り、高い健全性を維持しています。

**用語のご説明**

- 自己資本比率  
信用リスクの程度に応じてウエイトづけした資産(リスクアセット)に対する自己資本の割合です。この比率が高いほど不良債権等に対する備えが充実していることを示しています。
- Tier1比率  
劣後ローンなどの補完的項目を算入せずに、資本金、法定準備金、剰余金等の基本的項目で算出した自己資本比率で銀行の本質的な健全性を示す指標です。



## 金融再生法に基づく開示債権の残高と比率・格付

### ■金融再生法に基づく開示債権の残高と比率

平成22年9月末の金融再生法に基づく開示債権残高は16億円増加し、開示債権比率は3.92% (前年同期比+0.09ポイント)となりました。



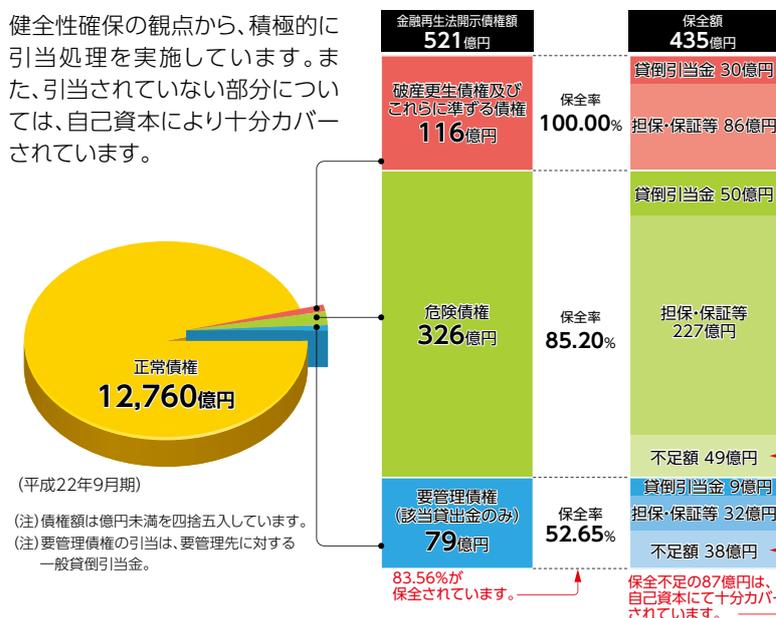
### ■格付

当行は、日本格付研究所(JCR)から長期優先債務について「A-」の格付を取得しています。「A」の定義は、「債務履行の確実性が高い」です。



## 金融再生法開示債権の保全状況

健全性確保の観点から、積極的に引当処理を実施しています。また、引当されていない部分については、自己資本により十分カバーされています。



**用語のご説明**

- 破産更生債権及びこれらに準ずる債権  
破産などの事由により経営破綻に陥っている先に対する債権やこれに準ずる債権。
- 危険債権  
経営破綻状態には至っていないものの、経営状態が悪化し、約定どおりの返済ができない可能性の高い債権。
- 要管理債権  
3ヶ月以上延滞債権と貸出条件緩和債権で、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」「危険債権」に該当しないもの。
- 正常債権  
経営状態に特に問題がないものとして、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」「危険債権」「要管理債権」に該当しないもの。